

主体的・対話的な国語科学習に誘う発問とは

—説明的な文章を読むことに関して—

Question Asking That Leads to Active and Interactive Japanese Learning:

—About Reading Explanatory Texts—

長谷川 栄子・松田 智子

Eiko HASEGAWA Tomoko Matsuda

要旨 (Abstract)

説明的な文章を読むことの学習過程において、主体的・対話的な学習を目指してと言いつつも、まだまだ内容把握に関する発問が多くみられる現状である。内容主義に陥らないためには、一体どのような発問が考えられるだろうか。

そこで、説明的な文章を教材とする単元を構想し、学習過程に沿って主体的・対話的な学習になるよう発問モデルを試作した。発問づくりにおいては、①子どもたちを主体的な学習者として捉えること、②読書プロセスに応じた単元全体で捉えること、③説明様式に応じることなどに留意することが重要である。

キーワード：(主体的・対話的な学習) (発問) (説明的な文章)

I. はじめに

説明的な文章を読むことの学習過程において、主体的・対話的な学習を目指すと言いつつも、まだまだ、内容把握に関する発問から脱却できずにいる授業が見られる現状だ。それは、子どもたちは、主体的な読者であり、学習者であるという枠組みに立脚していないからではないだろうか。また、精読に時間をかけすぎてしまうために、学習単元のゴールに指導内容を活用する表現活動を十分できていないからだろうか。さらに、国語科の言語活動を通して育成された表現力を各教科・領域で活用するという捉えがないからであろうか。汎用的な能力を国語科で育成しているのだと教員が理解していないと、内容主義的な学習に陥ってしまう。内容主義に陥らない発問には、一体どのような発問があるのだろうか。

そこで、主体的・対話的な学習に誘うために汎用的な能力としての読解力を育てるために説明的な文章を扱った教材において、発問を試作した。

II. 主体的・対話的に説明的な文章を読む

次に、井上一郎 (2015) の指導を受け、筆者が構想した授業の発問モデルについて、具体的に次に述べる。

(1) 単元の構想

①単元名 せつめいじょうずな てんいんさんに なろう

②教材

- i 教科書教材・・・「ふろしきは、どんなぬの」（東京書籍）
- ii 補助教材・・・『道具にヒミツあり』小関智弘，岩波書店（2007）
児童が収集した説明書やカードなど

③単元の指導目標

- i 事物の仕組みについて説明したカードや説明書、本などを探して読むことができる。
- ii 簡条書きによる説明と説明の文章の違いを比べて読むことができる。
- iii 自分の選んだ品物の説明を簡条書きに書くことができる。
- iv 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。

④単元の評価規準

- ア 品物について説明したカードや説明書、本などを選んで読もうとしている。
- イ 文章の中の大事な文と具体例を区別して読んでいる。
- ウ 大事な言葉を選び、自分の選んだ品物の説明を簡条書きで書いている。
- エ 事物の内容を区別して言葉を仲間分けしている。

⑤教材の趣旨と特徴

本教材は、第2学年の4つの説明文の内の第2教材に位置付けられている「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。これまでに「たんぽぽ」で、児童は、時間的な順序や事柄の順序などを考えて内容の大体を読んできた。

本教材は、簡条書きで説明されたカードと説明的文章を比べて読み、共通点や相違点を考えるように構成されている。また、学習の

手引きで理由を述べる文章に気付かせている。これは、学習指導要領の「読むこと」(2)ウの言語活動を通してイとエの内容を指導することに該当する。そこで、店員がお客に品物を説明するという場を設定し、簡条書きやQ&Aによる言語活動を行い、説明力を育てることをねらいとする。

【図1 教材配列】

- ①たんぽぽ
 - ②ふろしきは、どんなぬの
 - ③ビーバーの大工事
 - ④あなのやくわり

⑥ 単元の授業過程（読むこと10時間・書くこと2時間 全12時間）

次	時	学習活動	主な発問
一	1	① 提示されたふろしきについて知っていることを交流し、各自が品物を包むことを試した後、使い方を説明し合う。	☆ ふろしきは、どんな布ですか。となりの人に説明しましょう。
		② 教師が準備した品物（台所用品、調理器具、文房具など）から1つ選び、説明カードを書く。 (説明カード)	☆ 選んだ道具の便利さについて説明しましょう。
	2	③ 同じ品物を選んだ人たちでグループになり、質問したり、答えたりして説明不足の点を交流する。	☆ もうすこし詳しく知りたいことをグループの中で質問したり、答えたりしましょう。
		④ 学習課題「説明上手な店員さんになろう」を設定し、	

	3	<p>学習計画を協議する。(学習計画表)</p> <p>⑤ 生活の中で品物の説明書やカードを集めたり、品物について説明した本を読んだりし始める。</p> <p>(読書カード)</p>	<p>☆ どんなことを学習すれば、上手な説明ができるようになるかを班で出し合い、学習の内容を短冊に書きましょう。それを学習順に並べましょう。</p>
二	4 5 6 7	<p>⑥ 教科書教材の教師による範読を聞き、個人やグループで音読練習し、新出漢字を練習する。</p> <p>⑦ カードの記述と説明文の記述を比べて読み、対応部分を赤色、青色、緑色の色鉛筆で色分けして線を引く。</p> <p>⑧ 文の数、長さ、書かれている内容について違いを見付け、表に整理する。</p> <p>(ワークシート1)</p> <p>⑨ 説明文の記述において詳しく書かれている言葉を黒鉛筆で囲み、言葉を短冊に書いて交流する。</p> <p>⑩ 詳しく書かれている言葉を仲間に分類する。</p> <p>(ワークシート2)</p> <p>⑪ 説明文の記述を質問と答えの文に書き換える。(*書くこと)</p>	<p>並 行 読 書 を す る</p> <p>☆ 読みにくい文は、意味のまとまりで息継ぎして、すらすら読めるまで繰り返し練習しましょう。</p> <p>☆ 同じことが書かれている所に赤色、青色、緑色の色鉛筆で色分けして線を引きましょう。</p> <p>☆ 2つの説明の仕方の違いを見付け、表に書きましょう。</p> <p>☆ 詳しく書かれている言葉を黒鉛筆で囲みましょう。その言葉を短冊に書きましょう。</p> <p>☆ 見つけた言葉を仲間分けしましょう。</p> <p>☆ 本に載っている文章を質問と答えの文に書き換えて、隣の人と質問したり、答えたりしましょう。</p>
三	8 9 10 11 12	<p>⑫ 台所用品、調理器具、文房具などから説明する品物を選ぶ。</p> <p>⑬ 品物を説明する時の視点(大きさ、形、色、便利さ、使い方)を確認する。(ワークシート3)</p> <p>⑭ 選んだ品物について簡条書きで説明カードを書く。</p> <p>(*書くこと) (説明カード)</p> <p>⑮ 書いた説明カードを読み直して、自己評価をする。</p> <p>⑯ 2人組で質問と答えによる説明の練習をする。</p> <p>⑰ 「2年〇組ショップ」に3年生をお客さんとして招待し、品物の説明をし、お買い上げ票に評価を記入してもらう。</p> <p>⑱ 学習の振り返りをする。</p>	<p>☆ 品物を1つ選んで理由をノートに書きましょう。</p> <p>☆ 品物の何について説明すると、お客さんはわかりやすいですか。☆ 簡条書きのルールを確かめて書きましょう。</p> <p>☆ 書けたら口の中に〇印を付けて、確かめましょう。</p> <p>☆ 説明で分かりにくい点を質問しましょう。</p> <p>☆ お客さんに説明が上手にできたかどうかお買い上げ票に記録してもらいましょう。</p>

☆ 説明の仕方でも上手になった点とものと上手になりたい点を書きましょう。

⑦ワークシートのモデル

ワークシート2

この学びゆうをはじめて () (時間目) 月 日

名前

ことばをなかま分けしよう

■ 本にのっていた文しよは、どんなことばで、くわしく書かれていましたか。ことばをなかに分けましょう。

(1) 見出しのことば

形				
5	4	3	2	1

くわしいことばからよそうして、見出しのことばを書きましょう。

なかまのことばをさがして読みましょう。

(2) 見出しのことば

つなぎことば		
3	2	1

見出しのことば

↑	
2	1
小	大
さ	き
い	い

見出しのことば

↑				
5	4	3	2	1
		は	つ	つ
		こ	つ	か
		ぶ	む	う

見出しのことば

1	2	3	4	5

見出しのことば

1	2	3	4	5

見出しのことば

おとなりの人にしつもんして、こたえてもらいましょう。

「おとなりの人にしつもんして、こたえてもらいましょう。」

ワークシート3

この学びゆうをはじめて () (時間目) 月 日

名前

かじょう書きでせつめいしよう

■ あなたは、お店の人になって、どのしなものをせつめいしますか。一つえらんで、りゆうを書きましょう。

「えらんだ りゆう」

せつめいするとき、どのようなくとに目をつけるとよいでしょう。かんがえを出し合い、せいりしましょう。

■ しなものについて、かじょう書きでせつめいしましょう。

【せつめい】

1 へんりなご

2

3

かじょう書きのルール

□1 数字や記号(ご)をひかいて、書き出しをそろえる。

□2 一文(二十字くらいまで)で書く。

□3 つなぎことばをつかわない。

□4 文のおわりをおなじ書きあらわし方にする。

かじょう書きの四つのルールがつかえましたか。つかえたら、ばんごうの上の□に、○を書きましょう。

この単元では、3年生に対して簡条書きを活用したり、観点に沿って説明したりする表現活動をゴールに設定した。簡条書きのルールは、井上(2005)で9項目挙げられている。簡条書きで記述することは、一度では指導し切れないので、各教科・領域においても指導できる内容であることを忘れず、部分的に段階を追って、そして、繰り返す

活用して指導し、能力の定着を図りたい。

また、今回は、説明の視点を大きさ、形、色、便利さ、使い方とした。井上が、『誰もがつけたい説明力』（2005）において対象のカテゴリによる説明の表現様式を一覧にしている。それを参考にすると、内容的説明、形態的説明、機能的説明を取り上げたことになる。説明的文章において何が説明されているのか、子どもたちが説明する時に何について説明するのかを明確にして指導したい。

そして、児童自らが、これらの表現方法を使って表現しようとする姿が、主体的な学習者の姿なのだ。

Ⅲ. 発問の工夫

他の実践者の発問や自作の発問を授業過程に沿って観点を立てて整理してみると、次のようになる。

授業過程	発問の観点	発問モデル
導入	①体験の想起	☆ あなたは、歯が抜けた時どうしましたか。それは、なぜですか。
	②自分との関わり	☆ 生まれてからの7年間で、自分がどう変わってきたのかを思い出してみましょう。
	③読書経験の想起	☆ これまでにどのような人物の伝記や一生について書かれた文章を読みましたか。
	④既知の内容の捉え	☆ 題名について知っていることを整理しましょう。
	⑤題名	☆ 題名からどのようなことを想像しましたか。イメージマップに書きましょう。
	⑥感想	☆ 教材文を読んで、初めて知ったことを書きましょう。
	⑦学習課題の協議	☆ 教材文を読んで感想を書きましょう。
	⑧並行読書	☆ 学習課題を設定して、学習計画を立てましょう。 ☆ 関連した図書は、学校図書館のどのコーナーに置いてあるでしょう。関連した図書を探して読みましょう。
展開	⑨説明のカテゴリの把握	☆ 「じどう車くらべ」は、何について説明していましたか。 ☆ 役割を決めて、グループで音読しましょう。
	⑩音読	☆ 問いと答えに分かれてペアで音読しましょう。 ☆ 図表や写真を見る間を取りながら、音読しましょう。
	⑪構成を読む	☆ 問題提起の前の部分には、どのようなことが書かれているのでしょうか。これまで習った説明的な文章を複数比べて読んで考えましょう。 ☆ 始め、中、終わりのまとまりに分けてみましょう。 ☆ 筆者の考えが、始めと終わりのまとまりに書かれています。終わりのまとまりだけに書かれている文章と比べると、読者の受け取り方は、どのように違うでしょう。

	<p>⑫問題提起を捉える</p> <p>⑬思考操作</p> <p>⑭順序を捉える</p> <p>⑮事例を捉える</p> <p>⑯文章と資料との関連</p> <p>⑰語彙</p> <p>⑱表現方法</p> <p>⑲要点</p> <p>⑳要約</p> <p>㉑要旨</p> <p>㉒評価</p> <p>㉓引用</p>	<p>☆ 問題提起文はどの文でしょう。</p> <p>☆ 問題提起文が書かれていません。書き加えてみましょう。</p> <p>☆ ライオンとシマウマの赤ちゃんは、どんなところが違うのでしょうか。表にまとめて、違いを見付けましょう。</p> <p>☆ 時間順序がわかる言葉に線を引きましょう。</p> <p>☆ 文章中に示された写真を話の順序に沿って並べ替えましょう。</p> <p>☆ 問題提起に答える事例は、いくつ挙げられていましたか。</p> <p>☆ 示された事例を簡条書きで書きましょう。</p> <p>☆ 図を読んで説明しましょう。また、自分の説明と本文の説明を比べましょう。</p> <p>☆ 図1を説明している文章を読んでみましょう。</p> <p>☆ 図表を書き加えてみましょう。</p> <p>☆ 繰り返し登場する大事な言葉を探して丸で囲みましょう。</p> <p>☆ 大事な言葉を関連付けて言葉のマップにしましょう。</p> <p>☆ 大事な言葉がどのように移り変わって登場しているかを考えましょう。</p> <p>☆ 文末の表現の違いを比べて読むと、どのようなことがわかるでしょう。</p> <p>☆ 筆者の説明の仕方には、どのような工夫がありましたか。</p> <p>☆ 筆者の表現方法の工夫を使って、○字以内で自分の考えを書きましょう。</p> <p>☆ 大事な言葉を見付け、段落の要点を書きましょう。</p> <p>☆ 目的に応じて要約しましょう。</p> <p>☆ 選んだ目的に応じて、文章全体から要旨を捉えて○字以内で書きましょう。</p> <p>☆ 筆者の考えに対してあなたは、賛成ですか。反対ですか。その理由も交流しましょう。</p> <p>☆ 興味を持った文章を「」を使って引用し、自分の考えを書きましょう。</p>
<p>終結</p>	<p>㉔感想交流・評価</p> <p>㉕学習の振り返り</p>	<p>☆ 作ったリーフレットを読み合って、感想を付箋に書いて貼りましょう。</p> <p>☆ ペアの説明を聞いて内容を要約して相手に伝えましょう。</p> <p>☆ この学習で、どんな力がついたのかを3つランキングにして表</p>

	②6読書生活に生かす	<p>しましょう。</p> <p>☆ もっと知りたくなったことは、何ですか。これからどんな本を読んでいきたいですか。</p>
--	------------	--

このように授業過程における展開部の精読に関する発問だけでなく、言語活動や学習方法などに関して単元全体で発問の多様化を図ることが、主体的・対話的な学習を生み出すと言えるだろう。

IV. 情報に関する内容の追加から考える発問

平成29年版小学校学習指導要領 国語科において、思考力、判断力、表現力等の指導内容として説明的な文章を読むことの学習は、次のように位置付けられている。

	小学校		
構造と	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容の把握	ア 時間的な順序や事項の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて用紙を把握すること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

多田(2006)は、共創型対話力を高める3つの力として、聴く力、要約・自己再生組織力、プレゼン力を挙げている。説明的文章を読んで、ただ文章の内容を要約することにとどまらず、日常生活の中で生きる力としての要約する力の重要性を子どもたちに感じさせ、理解させるような場面を作ることが必要だろう。

そして、読むことの言語活動例は、次のように挙げられている。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	イ 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章に

ウ 学校図書館などを利用し、図書や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	述べたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	まとめたりする活動。 ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。
---	--	---

小学校で扱う説明的な文章には、説明、記録、報告、解説があり、その様式の特徴を理解して指導することが教員に求められている。そして、学習過程において科学的読み物、事典、図鑑、新聞などを読んで説明したり報告したりする活動を仕組むことになる。

平成 29 年度版の小学校学習指導要領国語科では、知識・技能の内容として新しく情報の扱い方に関する事項が次のように加わっている。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと。

このような事項は、読書との関連で指導する場面が生じる。説明的な文章を精読する時に情報の視点から捉えることが必要となる。例えば次のような発問が想定される。

	学年	発問モデル
情報と情報との関係	第1学年及び第2学年	☆ 似ている点を挙げましょう。 ☆ 違っている点を挙げましょう ☆ 順序が入れ替わっています。事柄の順序に並べ替えてみましょう。
	第3学年及び第4学年	☆ どのような事例を挙げて説明しているでしょう。 ☆ 筆者は、どのように考えましたか。 ☆ 筆者がそのように考えた理由は、何でしょう。
	第5学年及び第6学年	☆ 全体と部分を区別してみましょう。 ☆ どのような結果になりましたか。 ☆ そのような結果になった原因は、何であると考えますか。

情報の整理	第3学年及び第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 2つの事柄について長所と短所を比較してみましょう。 ☆ 特徴を捉えて、見出しを付け、分類してみましょう。 ☆ 必要な語句を書き留めましょう。矢印などで関連付けましょう。 ☆ 学習した引用の仕方や出典の示し方を使って、説明的な文章を書きましょう。 ☆ 事典の目次や索引を活用して、～について調べられる本を探しましょう。
	第5学年及び第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ☆ Aの事柄とBの事柄は、どのような関係になっているでしょうか。 ☆ 語句と語句との関係を次の図から選んで表してみましょう。

このほかにも、説明的文章を学習する上で関連する知識・技能の内容に（1）言葉の特徴や使い方に関する事項として、○言葉のはたらき、○文や文章が挙げられる。

V. 終わりに

以上、主体的・対話的な国語科学習に誘う発問とはと称して、説明的な文章を読むことにおける発問を検討してきた。①子どもたちを主体的な学習者として捉えること、②読書プロセスに応じた単元全体で捉えること、③説明様式に応じることなどに留意することが重要である。それ以外にも、以下のような視点によって、より発問が豊かになることだろう。

（1）「読解力」育成のための改善点

井上（2005）は、「読解力」育成のための改善点として、①目的に応じた解釈力の育成、②関連付けて解釈する能力の育成、③実用的・現実的活用の言語経験、④条件に対応した読むことのできる能力の育成、⑤多様なテキストに即応した能力の育成、⑥評価しながら読む能力の育成、⑦自分の感じたことや考えたことを簡潔に記述する能力の育成を挙げている。筆者の提案した授業過程や発問もこれらの改善点を踏まえて考えた。

（2）語彙力の育成

国語科の知識・技能の内容に言葉のはたらきの事項が挙げられている。説明的な文章において思考に関する語彙の学習は、欠かせない。多田（2006）は、対話力を高める要件として語彙力を増やし、運用力を高めていくことが、対話の技を効果的に高める下支えとなると述べ、その手立てを紹介している。

説明的な文章は、構成において易から難へ、具体から抽象へ内容の高まりを見せるだけでなく、語彙レベルにおいてもそのような変容を見せる。子どもたちと単語や語句の関連を語彙マップに表していくと面白いだろう。

（3）年間指導計画の工夫

国語科の教科書で掲載される説明的な文章の種類は、限られる。各教科・領域において、子どもたちが目にする説明的な文章の種類を補充したいものだ。日常生活の中で目にするリーフレットなどから必要な情報を取り出して読んでいる経験を関連付けて、学習に臨みたい。平成30年度全国学力・学習状況調査においては、①目的に応じて、複数の本や文章を選んで効果的に読むこと、②目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかきながら読むことに課題が見られることが指摘されている。朝の読書活動などの時間帯を活用するなどして、子

どもたちが、伝記などの説明的な文章を読む時間を保障したい。

(4) 表現様式に応じた教材研究の重要性

一口に説明文教材といっても説明的な文章には、記録文、報告文、案内文、広告文、紹介文、推薦文、説明文、解説文、意見文、報道文、随筆、手紙、日記など、多様な種類がある。特に紹介文と推薦文、説明文と解説文の特徴を捉え、その違いを区別して指導したいものだ。表現様式の特徴を十分に教師が理解してポイントを押さえて指導することが大切だ。日常生活の中で説明的文章を目にする機会も多い。教員が指導モデルを収集し、提示することによって子どもたちの学習意欲が高まる。子どもたちにも学んでいることが、生活の中で役立つことを実感させるような教材研究を行いたい。教師の学習に向かう楽しさが、子どもたちに伝わり、主体的な学習者を育成することになる。

【参考文献】

小学校学習指導要領、文部科学省（平成 29）

小学校学習指導要領解説 国語編、文部科学省（平成 29）

全国学力・学習状況調査報告書 小学校国語 文部科学省国立教育政策研究所（平成 30）

『対話力を育てる－「共創型対話」が拓く地球時代のコミュニケーション－』多田孝志（2006）教育出版

『誰もがつけたい説明力』井上一郎著（2005）明治図書

『読解力を育てる！小学校国語 定番教材の発問モデル 説明文編 アクティブラーニング型授業づくりのヒント』井上一郎編著（2015）明治図書

『「読解力」を伸ばす読書活動－カリキュラム作りと授業づくり－』井上一郎著（2005）明治図書